

これからも平和を続けよう

読谷小学校 六年一組 知花 珠里

私たちは毎日楽しく、平和に暮らせています。しかし、76年前はげしい戦争がおきました。

1945年、4月1日に読谷、嘉手納、北谷の海岸線一帯に米軍が上陸しました。米軍の上陸時、日本軍はすでに本島南部へ配置ががえとなり、米軍は反げきは、ほとんど受けまいまま「無血上陸」したとも表現されています。

しかし、米軍の砲爆げきなどで二千二人もの村民などが犠牲となりました。村内では米軍による攻げきによる犠牲だけではなく、チビチリがマなどで起きた「集団自決」で命を落とした住民もいました。チビチリがマには、当時約、百四十人が避難していましたが、軍国主義の教育によって敵の捕りよにほることを許されていなかっただ住民たちは、日本兵らから「米軍に捕まったら殺される」と聞かされていたきょう怖バから家族や親せ

き同士で殺し合う「集団自決」に追いこまれ  
てしまいました。犠牲になつた83人のうち、  
15歳以下の子どもが45人もふくまれていまし  
た。また、日本軍に仕<sup>つか</sup>えていた人が共に<sup>逃</sup>難<sup>難</sup>  
していたこと、様子を見に行こうとかマを出  
た住民を、米軍が日本兵と見誤り射殺したこ  
となど、数々のパニッ<sup>ツ</sup>ワになり、子や孫に手  
をかけなければならぬ状況<sup>よ</sup>うに追いこま  
れてしまつたのです。

私がいろんな人ほどの話を聞いて思つたこ  
とは、戦争はこわいことだと思つたし、シム  
クカマでは、ハワイ帰りの男性たちが「米軍  
は住民を殺さない」と説得して、「集団自決」  
がおこらなかつたことがすごいと思ひました。  
ほかにも、戦争でたいへんな時に自分の命も  
大切だけど、友達や、家族、親せきなどでひ  
つしににげたりかくれたりして相手のことも  
大切に思つてけんめいにいきのかようとして  
いてと、とてもすごいと思ひ、感動しました。

私は疑問に思うことがあります。それは、

戦後、生き残った方はどうやって生きのびたのかなと思います。なぜかというところ、戦後は食べ物も少ないと思うし、家などもなかつたかもしれないからです。ほかにも、なぜ、戦争をしたのだらうと思います。

私はいろんな方などの話を聞いて、戦争は二度とやってはいけないなと思います。ほかにも、昔戦争をけい験した方が話を次の世代の人に伝えてきてくれたから私たちも、ちゃんと考えて戦争は、おそろしいことなど、分なかつたことなどたくさんありました。私たちも次の世代の人に、伝えていきたいと思いました。